

# 在学青少年の社会参加活動

はじめに

人は、社会生活を通して人間となる  
と言われています。

確かに、人間は生まれた時から死を  
迎える瞬間まで、人々との交りの中で  
社会の一員として生きています。社会  
生活を営む最も基本的な単位は家庭で  
す。

生まれて間もないころは、両親はじ  
め、家族の愛情と庇護の中で大きくな  
ります。そして、成長とともに、近隣  
の仲間との遊びや学校での集団生活を  
通して、周囲の人々の愛情を受けなが  
ら人間的に成長します。

やがて、子どもたちは、人間として  
よりよく生きていくために、さまざま  
な組織や集団を形成した青少年団体や  
各種グループで、その中の一員として  
活動し、行動することを通して、生活  
上必要なことを身につけていきます。

したがって、人間は、好むと好まざ  
るとにかかわらず社会的関係を維持し  
て生きなくてはなりません。その意味  
では、自動的に社会参加をしていると  
いえます。

しかし、今日、人間同士のかかわり  
方や社会とのかかわり方に変化がみら  
れ、新たな視点から青少年の社会参加  
活動のあり方が問われています。

そこで、最近、県内のいくつかの市  
町村で調査した「在学青少年の意識に  
関する実態」の資料と、青少年問題審

議会意見具申（昭和五十四年）「青少  
年と社会参加」社会教育審議会答申  
（昭和五十六年）「青少年の徳性と社  
会教育」を参考とし、生涯教育の視点  
から青少年の社会参加活動のあり方を  
考えてみたいと思います。

## 一、社会参加の意義

### （一）今、なぜ社会参加なのか

総理府は、全国の十五歳以上の男女  
三千人を対象に、昨年十一月に実施し  
た「青少年の社会参加に関する世論調  
査」の結果について発表しました。

それによりますと、地域や福祉活動  
などの社会参加活動に関心を持つ人は、  
五十五%と半数を超えています。ただ、  
社会参加の実験の体験では、「参加し  
たことがある」は二十七%と低く、関  
心と行動に大きな差がみられます。

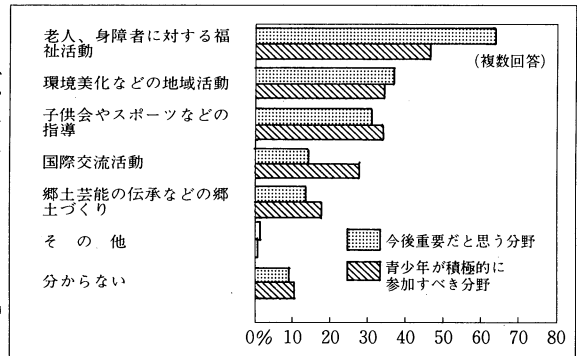
また、社会参加は、青少年の自己訓  
練や人格形成のために、重要だとい  
う考えについて「そう思う」は八十三%  
と十人のうち八人が社会参加の意義を  
認めています。また今後、重要だと思  
う社会参加の分野は、表1のようにな  
っています。

調査の結果では

①欧米に比べ社会的意識はまだ低い  
②日本人全体が忙し過ぎる

と分析し、今後、学校教育などで、社  
会参加活動を積極的に浸透させていく  
必要があるとしています。

表1 青少年の社会参加活動分野（総理府世論調査）



ところで、一九八〇年代は、「心の時代」と言われています。六〇年代は、「物の時代」で、物さえ豊かになれば人間は幸福になれると考えられていました。しかし、物が豊かになった今では、自分のことしか考えないで、他人のことはどうなつてもかまわないという時代となり、地域の住民としての社会参加や役割分担を果たすという習慣が少なくなる傾向にあります。

心が豊かになることは、人と人のかかわりが育つこと、人に対する思いやりが育つこと、他人の立場に立つて考えることができるようになることであり、地域社会とのかかわりの心が育つことでもあります。特に、明日を担う子どもたちにとっては、社会の一員